

診療の順番を待つ母子の列。自分の番が回ってくるのはいつか？—ジャバ郡で



命を小さくあえぐ

ネパールからの悲痛な叫び

5歳未満児の死亡率は日本の20倍

「助けて」。アジアで最も貧しいネパールで、幼い子どもたちが次々と命を落としていく。首都・カトマンズにある国内で唯一の小児専門病院は、全土から患者が集中して悲鳴をあげ、各地の一般病院も子どもを抱えた母親で連日埋まっていた。貧しさのため、病院に來れなくて亡くなる子どもたちもいる。5歳未満児の死亡率は1000人中128人(1993年)。日本(8人)の20倍以上だ。この子どもたちを救おうと、現地で「AMDA(アジア医師連絡協議会)ネパール」などが子ども病院の建設委員会をつくった。山々に連なれた国士で、中東部のカトマンズに運ぶまでには手廻れになる子どもたちが多い南西部をカバーしよう、プロフル市で計画を進めている。病院関係者や市民も口々に早期実現を訴えており、委員会は「日本からもぜひ援助を」と訴えている。

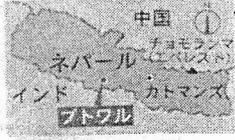
明日を生きたい

子どもを産んでから、口を離れても7年か8年たつて、まだ母の乳で育てられている。早朝5時のカトマンズ、1階の小児病棟。1階の外病棟で、診察待つの列は、どの層も変わらない。

唯一の小児病院へ数日がかりで

カトマンズから南西部へ連なれた村々。山々に連なれた国士で、中東部のカトマンズに運ぶまでには手廻れになる子どもたちが多い南西部をカバーしよう、プロフル市で計画を進めている。病院関係者や市民も口々に早期実現を訴えており、委員会は「日本からもぜひ援助を」と訴えている。

文・速見 新也
写真・藤尾 公治



子ども病院建設に希望託し



このような不衛生な光景はいたる所にあり、子どもの健康をむしばんでいく。＝カカラ



病院不足の患者のまぎが重なり、一つのベッドに2人、3人が寝ている。＝カカラ

子ども病院をぜひつくりたい。患者は市外からも来るでしょうが、運営はプロフル市が責任を持ってやります。病院を建設する場合、建てた後のメンテナンスで失敗するケースが見られますが、子ども病院の場合は患者数が多い。お金を持って

運営には万全を期す
プロフル市のスルヤ・プラサド・プラダン市長(56)

いる人からは治療費を取り、貧しい人からは取らないという方法でも財政的にやっています。経済団体が支援することも決まっていますし、市からも資金援助をし、NGOなども協力してくれる予定で。この病院ができれば、日本とネパールの友好の象徴になります。応援をお願いします。



プロフル市のスルヤ・プラサド・プラダン市長(56)

30床のベッドが、子どもを寝かせている。国民の子ども、この地域に生かす必要が、一つのベッドから取れる。もう一つ、もう一つのベッドが、半数以上の子どもが寝ている。半数以上のベッドが、半数以上の子どもが寝ている。半数以上のベッドが、半数以上の子どもが寝ている。

ベッド足りず同床

「恩返し」の国民参加型国際貢献を

50歳代といふナバ AMDA(本部・岡山市の型)の国際貢献にもなると思えます。AMDANepalは、内戦のあった、水害のあった、パンデミックなど、世界各地に出発しているAMDAの多国籍医師団の中核を担っています。今回の病院建設がさらに進めば、本邦の国際援助のほきパートナーが得られることにもなります。AMDA本部としても医療技術指導に専門家を派遣するなど、最大限の支援を行うつもりです。今回の子ども病院建設への協力は、その「恩返し」として国民参加



AMDANepalの代表者

【計画の概要】
プロフル市に計画中のこの新しい子ども病院は、同市中心部から東に2kmの牧草畑一帯に、四十の南部、インド国境に近い東西に走る高速道路から800mの距離で、交通の便はいい。約7畧の用地があり、将来的にベッドや病棟の増設などもできる。
乳幼児とその母親を守るため、小児科と産婦人科を併設。貧しくて病院に來ない母子を減らすため、薬局は院内に置き、貧しい子どもたちは薬を無料で渡すのが特徴だ。
計画中は、まずベッド100床の病棟と外来からなる建物1棟からスタート。軌道に乗れば2～3年後に研修センターをつくり、ここで2名の医師を研修させ、山間部の村まで派遣。医療と保健衛生への啓発活動や診察も行う。

【医師研修センター】
委員会事務局を務めるAMDANepalは、登録医師25人。阪神大震災の際、医師3人が日本で被災民の治療に当たった。事務局は、AMDAのほか、プロフル市、地元経済団体が構成。予定地の国有地を譲渡する手続きは病院建設のため



AMDAと地元がスクラム

委員会事務局を務めるAMDANepalは、登録医師25人。阪神大震災の際、医師3人が日本で被災民の治療に当たった。事務局は、AMDAのほか、プロフル市、地元経済団体が構成。予定地の国有地を譲渡する手続きは病院建設のため

の整地、電気、水道などのインフラ整備は建設後のメンテナンス費用——をプロフル市が担当。働く医師、医療建設計画などのソフト面はAMDAが責任を持つ。建設資金はAMDAが寄付金を募るが、当面は借入金で賄うことになっている。「私たちの子どもが病気になる時はインドまで行っている。病院があるなら行かない」「できるだけ早く帰ってほしい」。事務局は先月、プロフル市で行われた。出席した市議員が口々に建設への期待を語る。会議後は全員が建設予定地を見学した。
AMDAネパールの代表で、神戸大医学部に留学中のラメッシュワル・ボカリルギン(38)は「この病院は、子どもを救う拠点になる。今も医師より研修生を連れて病院に來ないたちが農村部に多い。こうした人への啓発活動を進めなければならない。ネパール南部の連綿帯にあるので、将来的には南アジアの緊急援助の基地にもなる。ぜひ日本からの協力が援助をお願いします」と、熱く話した。

子ども病院建設にご協力を

子どもたちへ目に見える援助を実施するため、今年のキャンペーンは従来の国連機関への寄付に加え、ネパールで進められている子ども病院建設計画にも協力します。教授金は、右記へ郵便振替で現金書留で送金いただくか、直接ご持参ください。

子どもたちへ目に見える援助を実施するため、今年のキャンペーンは従来の国連機関への寄付に加え、ネパールで進められている子ども病院建設計画にも協力します。教授金は、右記へ郵便振替で現金書留で送金いただくか、直接ご持参ください。

子どもたちへ目に見える援助を実施するため、今年のキャンペーンは従来の国連機関への寄付に加え、ネパールで進められている子ども病院建設計画にも協力します。教授金は、右記へ郵便振替で現金書留で送金いただくか、直接ご持参ください。

子どもたちへ目に見える援助を実施するため、今年のキャンペーンは従来の国連機関への寄付に加え、ネパールで進められている子ども病院建設計画にも協力します。教授金は、右記へ郵便振替で現金書留で送金いただくか、直接ご持参ください。